

まずは耐震診断を！

耐震診断とは？

昭和56年5月以前に設計・竣工された建物が、将来発生すると思われる地震に対して安全に使えるかどうかを調べる行為です。

耐震診断では、柱や壁の強度を計算し、構造耐震指標Is (Seismic Index of Structure) という指標を用いて耐震性を判定します。

Is値	概要
0.0~0.3	将来予想される地震において倒壊や全壊する可能性が大きい
0.3~0.6	倒壊には至らないが、かなりの被害(半壊程度)が生じる可能性が大きい
0.6~1.0	一部損壊等が生じる可能性はあるが、現行の耐震基準(昭和56年6月以降)で設計された建物と同様の性能を有する

※上記の概要は、あくまでイメージです。必ずそうなるものではありません。

地震発生による建物被害イメージ



地震に弱い家とは...

一般的に言われる“地震に弱い家”とは、昭和56年5月以前に建てられた住宅のうち、以下のような建物があげられます。

- 基礎がコンクリートではない
- 2階を増築した、1階よりも2階が飛び出している
- 窓が多い
- ガレージ等で1階部分に大きな開口部がある
- 大きな吹き抜けがある

いざというときのために、自分の家の耐震性を調べてみてはいかがでしょうか。特に、上記の「地震に弱い家とは...」に当てはまる家の方に耐震診断をおすすめします。耐震診断を実施する際には、以下のような助成制度を活用しましょう。

耐震診断に関する助成制度〈富山県〉

- 木造住宅耐震診断支援事業 問合せ：(社)富山県建築士事務所協会 TEL：076-442-1135
- 耐震診断等評価支援制度 問合せ：富山県土木部建築住宅課建築指導係 TEL：076-444-3356

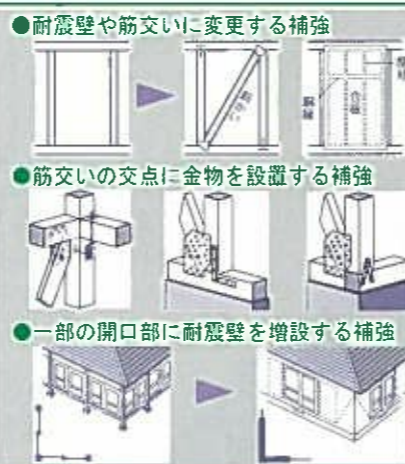
耐震改修のススメ

富山県や入善町では、みなさんが耐震化をすすめるためのさまざまな支援を実施しています。このような制度を活用し、地震に備えて耐震化を図りましょう。

木造住宅の耐震補強いろいろ

木造住宅における耐震補強の主な例は以下のようなものがあります。しかしながら、ひとりで耐震補強といっても、さまざまな方法があり、またそれは個々の家の特徴によって補強方法が変わります。(耐震補強の一例を右の図に示します) 詳しい内容については、専門家または入善町建設下水道課にお問い合わせください。

- 基礎の補強・・・玉石基礎などの場合には、鉄筋コンクリート造の布基礎に加え、土台をアンカーボルトで締めつけます。
- 壁の補強・・・筋交いを入れたり、構造用合板を張って強い壁を増やします。
- 壁の配置・・・壁の量を増やし、かつ、バランスよく配置します。



(社団法人 日本建築構造技術者協会 HP より)

耐震改修に関する助成・融資制度等〈富山県、入善町〉

- [富山県の融資制度] ○住みよい家づくり資金融資制度 問合せ：富山県土木部建築住宅課管理係 TEL：076-444-3355
 - [助成制度] ○木造住宅耐震改修支援事業
 - [住宅・建築物に係る耐震促進税制(特例措置)] ○所得税の特例措置
 - 固定資産税の特例措置※ 問合せ：入善町建設下水道課 TEL：0765-72-1100(代)
- ※工事完了から3カ月以内に申請

地震は突然やってきます

あなたのお宅は大丈夫ですか？

入善町では、“ゆれやすさマップ”を作成しました

地震が発生するとどうなる？

『入善町ゆれやすさマップ』において、入善町周辺の活断層や、入善町の直下で発生する地震を計算したところ、最大で震度6弱～震度6強クラスの地震が発生する可能性がある結果となりました。

この結果は、阪神・淡路大震災(震度7)や能登半島地震(震度6強)と同規模の地震であり、これらの地震の被災地では、下の写真のような被害が発生しております。

能登半島地震が発生した地域で地震が発生する確率(今後30年以内)は、地震発生前に0.1%未満と予想されておりました。なお、魚津断層帯における地震が発生する確率は、0.4%以上と予想されています。

(地震調査研究推進本部[文部科学省]資料より)



能登半島地震(震度6強)により倒壊・全壊した家屋 (気象庁HPより)

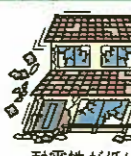


6弱



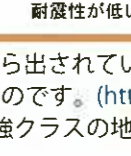
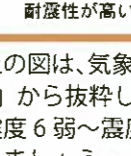
- 【震度6弱】**
- 立っていることが困難になる。
 - 固定していない家具の大半が移動し、倒れるものもある。ドアが開かなくなることもある。
 - 壁のタイルや窓ガラスが破損、落下することがある。
 - 耐震性の低い木造建物は、瓦が落下したり、建物が傾いたりすることがある。倒れるものもある。

6強



- 【震度6強】**
- はわないと動くことができない。飛ばされることもある。
 - 固定していない家具のほとんどが移動し、倒れるものが増える。
 - 耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものが増える。
 - 大きな地割れが生じたり、大規模な地すべりや山体の崩壊が発生することがある。

7



- 【震度7】**
- 耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものがさらに多くなる。
 - 耐震性の高い木造建物でも、まれに傾くことがある。
 - 耐震性の低い鉄筋コンクリート造の建物では、倒れるものが増える。

上の図は、気象庁から出されている「震度と揺れ等の状況(概要)」から抜粋したものです。(http://www.jma.go.jp/) 震度6弱～震度6強クラスの地震が発生するとどうなるか見てみましょう。

- “ゆれやすさマップ”とは、地形や地質の状況を考慮し、影響が大きいと考えられる地震について、震源となる活断層の位置や距離(長さ)、想定される地震の規模(マグニチュード)などの情報に基づき、これまでに国の機関や学識者等の研究により設定された“震源の規模や活断層までの距離とゆれの強さの関係式”を用いてゆれの大きさを計算し、地図上に表現したものです。
- 見開きの『入善町ゆれやすさマップ』は、入善町を約50m四方(メッシュ)単位に分割し、そのメッシュごとに入善町への影響が想定される「魚津断層帯で発生する地震」と、「全国どこでも起こりうる直下型の地震」について地表における震度を計算し、それぞれの地震の計算結果を地図上に表現しています。